

国道6号線沿いの野立て看板の分布とその特徴

久保 堯史 (地球科学専攻)

1. 研究目的・調査対象区間

本調査では、国道6号線にある野立て看板の分布と特徴を解明することで、通行ドライバーを対象とした商業戦略の傾向を明らかにすることを目的とする。調査区間は、牛久市・松戸市間の国道6号線、37.2kmである。

2. 研究方法

本調査では国道6号線にある野立て看板のうち、「あと〇km」、「次の信号を左折」など店舗の立地を記したものに限定し、設置箇所をウェイポイントとしてGPSで記録した。また同時に宣伝店舗・事業者の業種を記録し、これらをArcGISによって地図化を行った。

3. 結果

ウェイポイントを取得した63箇所のうち、千葉県松戸市・我孫子市区間は31箇所、茨城県取手市・牛久市区間は32箇所と設置箇所の数に違いは見られなかった(第1図)。

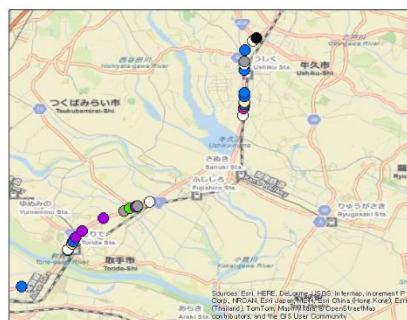
看板設置の傾向として、千葉県内から茨城県取手市にかけては、交差点付近に設置されているものが多く、茨城県牛久市においては、民家や空き地に設置されているものが代わって多くなっていた。また、最多設置数のポイントの千葉県流山市前ヶ崎では、ドライバーがカーブして走行する際に立て続けに見えるように設置されていた。

掲載店舗・事業者の業種割合は全体で小売店のものが最も高く、次いで2位ホテル、3位パチンコ、4位住宅関連と

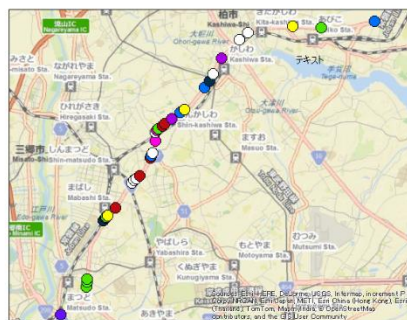
なっていた。また、千葉県では住宅関連、車関連が多いのに対し、茨城県では小売店の看板が約2.7倍多く設置されており、設置した事業者による違いははっきりと表れた。

4. 考察

同じ国道6号線においても、茨城県と千葉県では設置している店舗・事業者の狙いが異なると考えられる。茨城県では誘導そのものを目的としたものや、同業種の看板が多いことから、競合店との差別化という要素が強い一方で、千葉県では専門店の看板が多いことから遠方のドライバーに認識してもらうことを目的とした商圏拡大の要素が強くなっていると考えられる。



第1-1図 国道6号線沿いの野立て看板の分布 (茨城県取手市～牛久市)



第1-2図 国道6号線沿いの野立て看板の分布 (千葉県松戸市～我孫子市)



- kind
- 小売店
- ホテル
- パチンコ
- 飲食店
- ガーメント
- チャペル
- 病院
- 警察署
- スパ
- 車種
- 道標
- 郵便局
- 不明
- 他
- 他

0 125 250 500 5 km